

2019J2 ■順位表 ■第5節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	琉球	13p	+6	12	6
2	柏	12p	+3	5	2
3	甲府	11p	+6	9	3
4	水戸	11p	+5	7	2
5	山形	10p	+4	7	3 HO
6	岡山	9p	+1	6	5 HO
7	京都	8p	+1	4	3
8	新潟	7p	+2	6	4
9	岐阜	7p	0	4	4 --- ---
10	愛媛	7p	-1	3	4
11	長崎	7p	-1	2	3
12	栃木	7p	-2	4	6
13	横浜FC	6p	-1	4	5 A●
14	町田	6p	-7	3	10
15	金沢	5p	-3	9	6
16	大宮	5p	-1	5	6
17	徳島	4p	-2	6	8 A●
18	東京V	4p	-2	5	7
	鹿児島	4p	-2	5	7 H△
20	福岡	4p	-3	3	6
21	山口	3p	-3	9	12
22	千葉	3p	-6	5	11

次回HomeGame

第9節 vs. V・ファーレン長崎
4/14 (日) 14:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン
名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業
TEL.058-263-5201

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : **京都サンガ**

2018 J2 12勝7分23 勝ち点43:19位

直近の対決と結果	ここ3試合の公式戦の結果	
2018/08/11 J2 - 28節@長良川	FC岐阜	京都サンガ
岐阜 2-3 京都 薮内健人,中島賢星 scored.	2019/03/23 J2 - 5節@ニッパツ横浜FC 2-0 岐阜	2019/03/24 J2 - 5節@フクリ千葉 1-1 京都
	2019/03/17 J2 - 4節@長良川 岐阜 0-0 鹿児島	2019/03/17 J2 - 4節@西京極 京都 0-1 柏
	2019/03/09 J2 - 3節@長良川 岐阜 2-1 岡山	2019/03/09 J2 - 3節@博多陸 福岡 0-1 京都

●クラブ史上初となるJ開幕ホーム3連勝を懸けて、3/17 (日) 第5節に鹿児島を迎えて戦うFC岐阜。試合の前半は岐阜のパス回しが冴え、またボールを失ってもすぐに切り替えてボールを奪い返す守備がはまる。しかし、先制点を奪えないまま後半になると、選手の故障による交替の影響が戦術バランスが崩れて鹿児島に押し込まれる展開となる。何度か危険なシーンを迎えるも、守備陣の奮闘で0-0の引き分け。ホーム開幕3連勝は逃したものの、『J開幕ホーム3戦無敗』の記録は達成することができた。

そして続く3/23 (土)・第6節。アウェイで横浜FCと対戦したFC岐阜。J最年長出場記録を更新した#11 三浦知良をスタメンに配した横浜FCに対し、前半は岐阜のペースで進めることができたが、後半すぐに横浜FCが#10 イバを投入するとPKで先制点を奪う。その後、同点に追いつこうと攻勢を掛ける岐阜だったが1点が奪えず、逆にカウンターを受けて失点。結局、0-2での敗戦となってしまった。

この2試合の結果、FC岐阜の成績は2勝1分2敗・4得点4失点と全くの五分。順位は9位と若干後退した。第5節を経過した時点で比較すれば、2018年は勝ち点4で18位、2017年は勝ち点2で20位なのだから、大木監督体制3年目の滑り出しは、まずまずの成績といえるだろう。しかし、シーズン前に大木監督は今季の目標を『勝ち点70』と掲げ、その目標達成のために『6試合ごとに勝ち点10』という中間目標も挙げた。現在、岐阜は5試合で勝ち点7。つまり最初の間目標を達成するためには、今節は絶対に勝ち点3、すなわち勝利が必要だ。もちろん、その中間目標を達成しなくても、最終的な目標として勝ち点70を達成できれば良いという意見もあろうが、最初の間目標を達成できるかどうかで、今後の目標達成への意気込みもおのずと異なってきてしまうだろう。だから今節は、何としても勝利で飾りたい。

さて、その今節の対戦相手は京都サンガFC。だ。昨季の順位は岐阜よりひとつ上の19位で終わり、体制を大幅に刷新。J初采配となる中田一三監督を迎えて新たなスタートを切ったチームだ。現在は2勝2分1敗・4得点3失点で7位。つまり岐阜が勝利すれば、順位も入れ替わることになる。その意味でも、今節は勝利が求められる。京都との通算対戦成績は、岐阜の3勝4分9敗・15得点26失点と大きく負け越している。ホーム戦では若干勝率が良くなるが、それでも3勝1分4敗・11得点14失点と負け越している。前回対戦した昨年8/11 (土)・第28節ホーム戦では、2点をリードしていたものの3点を奪われて逆転負けして5連敗を喫した試合だった。今節こそは、しっかりと勝ちきってリベンジを果たさなくてはならない。

京都の要注意選手には、#22 小屋松知哉を挙げたい。直近の対戦4試合で4ゴールを奪われているこの左サイドのアタッカーは、前節に今季初ゴールを決めて調子を上げていく。そして、2016年には“岐阜の心臓”と呼ばれた#10 庄司悦大の精度の高いキックにも注意が必要だ。また、ベテランの#4 田中マルクス闘莉王は守備の要として立ち回っている。一方の岐阜では、やはり京都ユース出身の#28 永島悠史が、古巣に“恩返し弾”を決める姿に期待したい。また、京都は11年~13年に大木武監督が率いたチームでもある。その点でも、今節は勝たなくてはならない。

上位の順位を目指すためには、連敗をしないこと、そしてホームでは勝ち続けること、少なくとも負けないことが絶対条件だ。前節の敗戦から気持ちを切り替えて、今節こそはホーム・長良川競技場で勝利を掴み取ろう。最後まで勝利を信じて走り続ける、岐阜の選手たちの背中を押し続ける、拍手と声援を送り続けよう。そして試合終了後には、勝利の『万歳四唱』で選手たちを讃え、勝利の喜びを分かち合おう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第4節】岐阜 0-0 鹿児島

●この時期にはよくある『寒の戻り』とはいえ、雪まで降るのは戻りすぎでしょう…しかも、日曜開催でおぶさパーク（駐車場）も使えない。そしてマッチスポンサーの無い試合。それでも観客は4,600人。入場前の待機列は僕の予想を遥かに超えていた。うん、フロントスタッフは本当にがんばってると感じる。

さて、初対戦となる鹿児島相手に、序盤は面白いように試合を支配する岐阜。パスは繋がる、セカンドボールは拾える、ボールを奪われてもすぐに攻守を切り替えてボールを奪い返す…ここで先制点を奪えれば良かったのだけれど、あまりにボールを回せるから、岐阜の選手たちに「いつでもゴールは奪えるから焦らぬにこころ」というような想いが浮かんでしまったかもしれないと思う。しかし、獲れる時に獲れないと流れが変わってしまうのがサッカー。鹿児島CF #28 韓勇太に抜け出され、#25 ビクトルが飛び出して防いだころから徐々に選手間のバランスが崩れ、鹿児島に攻め込まれるシーンが増えてくる。ハーフタイムで岐阜の選手たちが相手よりも後に出てくるのなんて珍しいことだから、これはロッカールームで大木監督の檄が飛んだかな（苦笑）。後半の巻き返しに期待したのだけれど、不運にも#22 柳澤亘と#35 長倉颯の両SBが相次いで負傷。交代カード3枚のうち2枚を切らざるを得なくなったのが、この試合をさらに難しくしてしまったと思う。試合の終盤は、鹿児島の攻撃に対して岐阜の選手たちが身体を張ってゴールを死守する時間帯が続く。そこを決めさせない岐阜の守備が良かったと言いきななのか、それとも決めきれない鹿児島の攻撃に助けられたと言いきなのか分からないけど（苦笑）。残念ながら開幕ホーム3連勝は達成できなかったけれど、それでも、ホームで負けなかったことは評価したい。次は勝とう。…あ、天気は暖かい快晴でお願いします（笑）。（ささたく）

●攻めきれずに勝ち点2を失ったとも、よく守って勝ち点1を得たとも、どちらとも取れるゲーム内容だったかな。前半はほぼほぼ岐阜のペースだっただけに、ここで得点出来なかったのが惜まれる。後半15分辺りからプレスが効かなくなって、ボール拾えなくなってサイド攻撃を許してしまい、更に長倉の負傷退場で、予定外の交代枠を使うことになってしまった。

終盤はビクトルの好セーブに救われていた場面もあり、あと今日の富樫は少し消極的だったか、宏矢との交代でチームが活性化することは残念ながらなかった……。

これで勝ち点7、例年の我が軍の序盤戦の状況を思えばまずまずの滑り出しではなかるうかと。（岐阜の誇り）

●キックオフからずっとウチのターン。このままでいったら、今日はいったい、どうなっちゃうんだろうか……と心配もしたが、残念な意味で杞憂に終わってしまったよ。なんていうんだろう？最初っから、うまくハマりすぎてしまったという感じかな？そこで決めきれないまま、鹿児島に息を吹き返され、あわやのピンチが幾度も訪れたが、ソコはビクトル。チャンスは双方にあったと思うが、より決定的な場面を作ったのは鹿児島の方、かな？またしても守護神のビッグセーブに助けられたけど、それ以上に向こうのシュートミス、ラストパスの精度にも救われたのは否めない。鹿児島が開幕戦で撃ち合いを制したことも、そのあと連敗してる理由も何となくわかるような気がする。ただ、今んところはJ2の壁にぶち当たっているみたいだけど、そこを突き抜られるか、どうか。7月の白波スタジアムが待ち遠しいような、オソガイような。その時はキッチリと白黒つけたい。もちろん、ウチが白でね。それにしても、J3から上がってきたクラブって、ホントにどのクラブもとんでもない。まだ、J3に出戻ったクラブってないよね？残留組最下位のウチは、どことやっても気が抜けないね（苦笑）。

とはいえ、勝ち点1は勝ち点1。負けるよりはずっといい。今季のホーム負け無しは継続中。初めて来たヒト、たまに来るヒト。そんな面々に「自分が見に行ったら負けなかった。」なんて思ってもらえたとしたら、なおさらラッキーなことだ。ホームで負けない。コレ、大事。次のホームもよろしくです！この試合のホームタウンは海津市。最近のことはわからないが、昭和の半ばに小学生をやった美濃地方の者にとって、姉妹県・鹿児島との由縁は忘れられないところ。『宝暦治水』の話は何度も聞いたし、遠足というか、社会見学で一度は三川公園に行ったはず。そういう恩も義理もある鹿児島との試合のホームタウンデーを担当するのは海津市以外ありえない。なかなか胸アツな、感慨深い一日でした。（ぐん、）

●前半から岐阜のフォアプレスが面白いように効いていて、しかも攻撃でも相手を動かして消耗させることに成功していて（成功しているように見えて）、岡山戦勝利の残像もあって「これは今季の岐阜は違うぞ」とワクワクしたのだけれど、消耗したから後半は止まるはずだと思った鹿児島はそうはならず、消耗して止まってしまったのは岐阜の方だった。あれだけ押していたゲームで「負けなくてよかった」という結論になってしまうのは、結構本意なんだけど、それでもそうなんだから仕方がない（苦笑）。

開幕戦の頃から「今季のスタイルで岐阜の厳しい夏を乗り切るのには厳しい、サブメンバーのコンディションが重要になる」とぼくの周囲で言われていたけど、それが3月の時点で明確になった。チーム戦力のマネジメントが問われますね。（吉田铸造）

【第5節】横浜 FC 2-0 岐阜

●よく“三寒四温”と言いますが、こうも見事に週末・試合開催日になると激しく冷え込むのは何とかしていただけないでしょうか…（溜息）。まあ前節のホーム戦で経験してるから寒さ対策は万全でしたが（苦笑）、3月下旬に横浜で雪？あられ？ヒョウ？が降ってくるとは…。しかも横浜のスタメンに…#11 カズ！？しかも1トップで#10 イバはベンチスタート。そして中盤には#22 松井大輔と#39 伊野波雅彦と#40 レアンドロ・ドミンゲスという豪華な顔ぶれ。「あー、代表戦でJ1は試合が無いし、カズ出しときゃ間違いなくニュースで流れるからっていう布陣だな！しかも1トップなんて『後半からイバ出します』って宣言してるようなものだし、こりゃ“顔見世興行”だな！」と思った僕は性格が悪いのかもしれませんが（苦笑）。でも実際、カズ目当てと思われるカメラ群がぞろぞろと…。

だから、前半の内に先制点が欲しかった。#11 カズには申し訳ないが、彼は1トップ向けのプレイヤーではないし、だから横浜の攻撃には迫力がなかった。一方の岐阜は、中盤でのパス回しはできていたが、またしても言いきななのか、それとも大木サッカーの宿命と言いきななのか、相手ゴールを脅かすシュートには繋がらない。特にこの日の試合は、僕には岐阜の選手がいつもよりさらに密集している気がしたのだけれど、ゴール前で密集してるところに横浜の選手も集まってくるから、ゴールを狙う隙間どころか、シュートを撃つためのスペースすら無い。そんな状況になっていることが何度もあったように感じた。もっと、相手が集まってくる前にシュートを狙う意識を持たないといけないと思う。今シーズンこれまでの4ゴールだって、パスを繋いで奪ったものではなく、前線でボールを奪ってショートカウンターで決めたものだというのを忘れちゃってるんだろうか？

後半、オフサイド判定になってしまった“幻のゴール”の後に、横浜FCは#10 イバをまるで予告通りのように投入。すると急に流れは横浜FCに。不運にもハンドでPKをとられたシーンも、ポストプレーの#10 イバ→#7 松浦。その後もまあ…完全に#10 イバ頼みのサッカー。でも簡単だし、面倒な相手です（苦笑）。

#31 宮本航汰のミドルシュートが決まっていれば、また試合の流れも変わったと思うけれど、残念ながら枠の外へ。あの時、ゴール前では#11 前田遼一が動きなおしてファーサイドでボールを呼んでたから、あそこにクロスを入れてくれたら…と、“たられば”をしたくなります。

そしてバランスを悪くしながら攻めてても点が決まらないうと、またカウンターで失点するというのもよくある話なんですけど、またしても#10 イバ→#7 松浦。結局、1点を返すこともできずに敗戦。明確に課題が見える試合内容だったと思う。ところで、横浜FCって昨年3位の関東圏のチームですよ…すっごく寒かったとはいえ、どーして土曜日の試合で3,400人しか入らないのですか(苦笑)。ウチは日曜で4,600人でしたよね…なんだか、試合内容“以外”の色々な面も比較してみたいかな。ささたく)

●なんで、こんな結果になってしまったんだろう？ゴール裏で応援しながら、全然負ける気はしなかった。それは2点差になっても変わらなかったし、なんなら「少なくとも追いつくことはできる。」くらいな気持ちだったように思う。とはいえ、敗因がまったく不明ということもなく、やっぱり『点が取れなかったこと』に尽きるのかな。それも、前半の内に。もつとと言うと、キングが出ている間に。

たしかに、現在進行形の伝説だし、敬意を払うのは当然だと思うけど、ウチの2トップのように最前線からプレスを掛けることもない。右サイドとPA内で動いているだけで、特別仕事をしたようにも見えなかった。あ、1回だけクロスに合わなかったけど、ドンピシャのタイミングで飛び込んできたのは危なかったな。

だから、彼がスタメンというのは、「ある程度スクランブルな状態なの？横浜は。」とも思ったんだけど、10番はちゃんとベンチに入ってた。結局、キングに替わって10番が出てきたら2失点。強いし、上手いし、ボールは収まる。そのボールは取れないし、ドリブルもあるし、パスも出せる。それで、昨季のこの場所でもやられてしまった。まったく、J2では破格の存在だ。でも、だからといって、やられっぱなしでは夢も希望も叶わない。目標にも届かない。実際、横浜に勝つクラブもあるワケだ。だから、横浜はJ2にいる。ウチも彼らに五分以上の星を残せるようにならなければ上には行けない。試合が終わってから数日経つけど、どうも気分がよろしくない。どうしても、横浜の思い通りにハメられた気がしてならないから(苦笑) 実際の所、向こうの10番のコンディションがどうだったのかはわからないが、大看板のキングをスタメンで50分も顔見世ができて、イーブンのままでエースを出して、そのエースが1得点1アシストで今季のホーム初勝利とか。向こうの望んでたシナリオ通りの展開になってしまったことがとにかく悔しい。

たしかに不運にも見える判定はあった。だが、いずれも、そう取られればしかたがないというギリギリのプレー。その前に、できることはあったはず。この試合はスタッツから見ると、いつも以上に枠内シュートは多かった。それだけに、後半の航汰が放ったミドル。あれこそ、枠に飛ばして欲しかった。あと、富樫の使い方。せっかく、逆サイドでフリーになっているのにもったいない。彼を使った方が前田も生きてくるんじゃないかな？まだまだ、発展途上と思いたい。

残念ながら勝ち点は加算できず。目標まで勝ち点3。今節の京都戦できっちり達成することが出来るのか。京都の10番にも昨季は苦汁を飲まされた。やられっぱなしじゃいけない。熨斗をつけてお返ししてあげたいね。(ぐん)

【セカンド】 今季も天皇杯予選からスタート

●昨季、東海社会人サッカーリーグ2部を戦ったFC岐阜 Second (以下『セカンド』)は、10勝2分2敗で見事に優勝。今季は舞台を再び1部に戻しての戦いになります。東海リーグの開始前に、全国社会人サッカー選手権大会予選と岐阜県サッカー選手権大会(天皇杯岐阜県予選)社会人ブロックを兼ねた大会がスタート。セカンドは1回戦をシードされ、4月7日の2回戦から登場になります。(吉田铸造)

